

デニムのサステナビリティ ―デニムから環境問題』を考える―

コース・専攻：生活環境

グループ名：SD ジーンズ

メンバー：長田方宏 寺村まり 濱口陽子 若松明美

生活環境の授業で、人類は、産業革命以降の約 200 年で数千年数億年かけて形成された化石燃料を使い果たしつつあるということを学び、我々はショックを受けた。今、一人一人が自覚を持ち行動するために、身近で具体的なテーマとしてデニムを選び、その歴史、環境負荷および対策、再生、私たち自身の生活との関わりなどを調べることにした。

デニム各メーカーは、原材料から加工・製品完成まで環境を意識したものへとシフトしつつある。販売者では、着なくなったデニムを回収して再生する取り組みが始まっている。少しでも化石燃料を使わずに、今あるものを循環できないかという研究も進みつつある。代替素材の可能性も想像以上にあることもわかった。そして、デニムが再生可能な品目の一つであることが認識できた。

デニムの聖地である岡山県児島をスタート地点として学習をすすめ、生地や糸の製造者、使用されたデニムを再利用するために努力している販売者やメーカー、古着を扱っている店舗など、多くの人々と話をする事ができた。現場は、「循環」を意識して環境問題に本気で取り組んでいることを知り、力強さを感じるとともに自分達も再利用や製品の履歴・原材料に注目して行動することが大切だと思った。



今回の学習によって、人類のあらゆる生産活動が自然環境に何かの影響を与えずにはいられないということに改めて気づいた。が、その一方で、文化的で高度な技術を有するのは、現在の地球上では人類だけであることも事実である。私たちは、その自覚をもって仲間である動植物、天体、鉱物などと共存していく決意を持つことが非常に大切だと感じている。

フィールドワークは、人との出会い、グルメ、乗り物など、楽しみに満ちていた。そしてなによりも、この素晴らしい 4 人の間でたくさんの時間を共有し、互いに忌憚なく意見を交換した結果、30枚のまとめという形にでき、パワーポイントでの発表を行うことができたのは、本当にうれしいことであった。今後も脱炭素、環境問題には注目していこうと思う。